

大学院体験記

中本 祐美子 (平成 22 年卒)

平成 22 年卒の中本と申します。私は卒後 7 年目で帰学させて頂きました。

1 年目は虚血・不整脈・生理検査グループを回りながら病棟業務を行い、週 1 回心臓 CT 検査を行いました。市中病院では日々の業務に追われていましたが、大学病院では 1 つ 1 つの症例に深く向き合い、症状を改善させるだけでなく、病態を考えてより詳細な検査を施行したり、論文を検索したり、上級医と議論をすることができました。珍しい疾患や病態も多いですしカンファレンスも活発で、各先生方による多方面からのご意見を頂くことで、今までとは違う考え方もできるようになりました。

2 年目以降は、各専門分野に分かれて研究や臨床を行っていきました。私は JA 広島総合病院で心臓 CT を学び興味を持っていた事と、冠動脈や大動脈弁、大動脈のプラーク形成・石灰化・瘤化について以前より興味があった事から画像診断グループに所属し、主に心臓 CT の検査・画像作成・読影を行いました。また、北川先生のご指導の下、癌の骨転移で用いられる PET トレーサーの $^{18}\text{F}\text{-NaF}$ を使用した PET/CT の研究に携わらせて頂き、冠動脈プラークと大動脈弁石灰化の関係や、大動脈弁石灰化の進行について研究し、学位論文とすることができました。 $^{18}\text{F}\text{-NaF}$ は日本では未承認の薬剤であり、特定臨床研究となるため多くの事務手続きが必要でしたし、広島大学病院では取り扱っていないため、近くの広島平和クリニックのご協力なしでは施行できないものでした。学会でも多くの先生方が興味を示してくださり、ご質問やご意見を頂くことで私の理解も深まっていきました。

私事ですが、私は在学中に結婚・妊娠し、お腹が大きい中で学位を取ることができました。結婚後に学位を諦める女医さんもいる中このように医学博士を取得できたのは、北川先生をはじめ、周りの先生方のご指導やご支援があったおかげです。また、産後の職場復帰についてもご高配頂き、家事・育児と仕事が両立できるようにご配慮頂きながら、支えられつつですが働くことができています。この場を借りまして、皆様に心より御礼申し上げます。

私の体験記が少しでも参考になれば幸いです。



写真：せとうち心臓 CT・MRI
勉強会